

平成 24 年平均消費者物価地域差指数

(平成 25 年 3 月 29 日公表)

概 況

地域間の物価水準差を測る平成 24 年（2012 年）平均消費者物価地域差指数（51 市^注平均＝100）の総合指数（持家の帰属家賃を除く）を都道府県庁所在市別にみると、横浜市が 106.7 と最も高く、次いで東京都区部が 106.0、さいたま市が 102.9、神戸市及び長崎市が共に 102.3 などとなっている。一方、最も低いのは前橋市の 96.9 で、次いで秋田市、奈良市及び宮崎市がいずれも 97.3、福岡市が 97.4 などとなっている。なお、横浜市は前橋市に比べ 10.1%高くなっている。

大分市は 98.6 で、全国の都道府県庁所在市のうち 35 番目となり、最も高い横浜市に比べ 7.5%低くなっている。

九州各県の県庁所在市をみると、長崎市 102.3（4 番目）、熊本市 100.6（15 番目）、那覇市 100.1（19 番目）、鹿児島市 99.3（28 番目）、佐賀市 98.0（41 番目）、福岡市 97.4（43 番目）、宮崎市 97.3（44 番目）となっている。

また、食料指数でみると、大分市は 100.2 で、全国の都道府県庁所在市のうち 19 番目となり、最も高い横浜市の 105.8 に比べ 5.3%低くなっている。

注) 51 市とは都道府県庁所在市（東京都については東京都区部）及び政令指定都市（川崎市、浜松市、堺市及び北九州市）のことである。

